

令和8年度 学校経営計画

白山市立北辰中学校 校長 南 克彦

学校教育目標

「目標をもち自ら学び 心豊かで たくましい生徒の育成」

教育方針

- (1) 学習意欲を高め、自分の言葉で理由をつけて考えを伝えることができる生徒の育成【学び】
- (2) 人と人との絆を大切に、互いに認め合い、支え合おうとする心豊かな生徒の育成【絆】
- (3) 基本的な生活習慣を身に付け、自らの健康や体力の増進に努める生徒の育成【健康】

学校経営の基本理念

自ら未来を切り拓くたくましい生徒を育成するために、「本気の挑戦」による確かな成長が得られる学校づくりを目指します。そのために、学校教育目標・教育方針を共有し、交流力を柱としたカリキュラム・マネジメントの充実を図るとともに、挑戦を支える安心の環境づくりに努めます。

☆目指す学校像

- ・夢や目標の実現に向け、学びの意欲に満ちた学校
- ・思いやりの心を持ち、挑戦を称え合い、互いに高めあえる学校
- ・保護者や地域と連携・協働し、健やかな子供の成長を支える学校

～カリマネの柱～

交流力

- ・伝える力
- ・聴く力
- ・協働する力

☆目指す生徒像

- ・目標をもち、自ら学び創造する生徒
- ・知性と思いやりのある礼儀正しい生徒
- ・たくましい未来を切り拓く気力と体力のある生徒



3C

～R8コンセプト～

Challenge(挑戦)

Care(思いやり)

Cross(交わり)

令和8年度研究主題 「あいての考えを聴き、自分のことばで考えを伝えることができる生徒の育成」
～学び合う授業づくりを目指して～

◆今年度の重点目標

(1) 目標をもち自ら学ぶ生徒の育成	(2) 心豊かな生徒の育成	(3) たくましい生徒の育成
<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に「北辰オリジナル授業デザイン」を実践し、生徒が自己の成長を実感できるよう、授業改善を継続して進める。 ・「話す土台」「聴く土台」を意識した学び合いを充実させるとともに、協働的な学習場面を計画的に設定し、交流力の育成を図る。 ・ICT機器やGIGA端末を効果的に活用し、課題となっている基礎・基本の定着を図るとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の感性を豊かにし、地域を愛する心を育むため、「はくさん3育（シオ育・食育・読育）」の推進と充実を図る。 ・生徒一人ひとりの良さを積極的に見だし、教師による日常的な「褒め・認め」を通して自己肯定感の向上を目指す。 ・いじめの適切な認知、不登校の未然防止、気になる生徒の早期発見に努め、組織的かつ継続的な対応を行う。 ・教育相談や特別支援教育の充実を図り、自分や周囲の人を思いやり、互いに支え合い高め合う学校風土の醸成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自治的活動である「ニコ活」を支援し、教師自身が手本となって挨拶の大切さを指導し、さわやかな挨拶ができる生徒を育成する。 ・キャリア教育の多様な実践を通して、自らの将来に関心を持ち、未来を切り拓く力の育成を図る。 ・学校安全教育の充実を図り、様々なリスクに対する生徒自身の安全意識を高める。

◆目指す学校組織・教職員の在り方

(1) 組織的な学校運営	(2) 家庭・地域との連携・協働	(3) 教員の働き方・業務改善の取組
<ul style="list-style-type: none"> ・主任会議を軸とし、各主任のリーダーシップを生かした学校運営 ・チームで協働することによる学校運営への参画意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の活用やコミュニティスクールの推進（地域行事、職場体験、学校花壇、部活動支援等） ・地域と連携して系統的に実施するシオパーク学習 ・近隣教育施設（幼小中高大）との連携 鶴来第2幼稚園：合同避難訓練、家庭科保育体験 広陽小：小中連携モデル校としての多様な実践 鶴来高：キャリア講話、金沢工大：学習ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動時間や活動日の削減（R7～） ・校内DXの推進や行事・会議等の精選 ・分掌間の連携強化や業務平準化の検討 ・計画的な業務遂行や勤務時間管理に関する情報交換（若プロ等）

G I G A スクール構想の取組

※生徒1人に1台のP Cと、全国の学校に高速大容量の通信ネットワークを整備し、多様な子供達に最適化された創造性を育む教育を実現する構想

(1) 目的

- ① 時間・距離の制約なく良質な学びを提供する
- ② 個別に最適化された効果的な学びや支援をする
- ③ 学校における事務を効率化する

(2) 現状と課題

- ・学校全体のI C T活用は確実に前進している。今後、生徒の学び合いを充実させるために、教師個々のI C T活用指導力をさらに高める必要がある。
- ・各教科の学びを高める効果的なI C T活用の実践を学び、教科部会等で検証する必要がある。
- ・授業でのICTサポーターの活用や教員の力を最大限に引き出す校内研修（提案授業等）を継続・発展する必要がある。
- ・I C Tを活用した個や集団の見取りを生かした双方向の授業を行う必要がある。

(3) R 8 年度末に目指す姿

【全ての生徒の可能性を引き出すための個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実】

- ・生徒一人一人の反応を丁寧に見取りながら、双方向の授業を展開し、きめ細かな指導をする。
- ・伝える場面では、生徒一人一人が独自の視点で情報を収集して整理、分析を行い、それらを即時に 周りと共に共有して議論できるようにする。
- ・生徒個々の学びの状況を把握し、G I G A 端末による課題や電子ドリルの活用等により、基礎基本の定着を図る。

(4) 組織体制及び年間計画の作成

- ・G I G A 校内研修推進リーダーが中心となって研修計画を立案し、提案授業や実践報告を通して、効果的かつ効率的な活用について研究する。また、G I G A 校内研修推進リーダーを各学年に配置し、苦手な教員への日常的な支援やI C Tサポーターの計画的な活用を促す。

R8コンセプト

3C

Challenge (挑戦)

本気の挑戦で、確かな成長を感じ、自分の可能性を広げよう！

Care (思いやり)

自分や周囲の人々を思いやり、共に支え合い、高め合おう！

Cross (交わり)

多くの人と交流し、心を通わせ、新たな価値を創造しよう！